

将来を見据えた庁舎整備

1 想定される社会の変化

日本では少子高齢化・生産年齢人口の減少など社会の構造が大きく変わってきており、岡山市においても総人口は 2020 年をピークに減少に向かい、生産年齢人口も同じく減少し続けると想定されています。また近年、ICT や AI 技術の進展は著しく、ソサエティ 5.0 が実現する社会においては、世界規模で社会や経済の仕組みが変わり、私たちの生活や働き方も大きく変わることが想定されます。

ここでは、想定される将来の変化や課題、社会的な取り組みなどを踏まえて、新庁舎整備において配慮すべき具体的な取り組みを整理します。

<ソサエティ 5.0 (Society5.0) > (内閣府)



将来想定される社会の変化

<社会構造の変化>

- ・ **生産人口減少**：人口減少にともない、生産年齢人口が減少するため、生産効率を高め生産力を維持するには、ICT や AI 技術、ロボットなどで補う必要がある。
- ・ **超高齢社会**：きめ細やかな相談等を要する高齢者福祉サービスの需要が高まる。

<新たな技術による変化>

- ・ **ICT の進展**：オンライン申請等で、市民は自宅にしながら申請手続きや相談などの行政サービスが受けられる。
- ・ **AI・ロボット技術などの進展**：これまで人間が行っていた定型的作業を AI やロボットなどが代替して行える。
- ・ **新たな交通システム・サービス**：車のシェアリングサービス（オンライン配車サービス）や自動運転システム、空飛ぶタクシーなど、市民の交通手段が変化。

<多様化による変化>

- ・ **国際化社会**：在留外国人の増加により、外国語や異なる文化・習慣への対応が多様化する。
- ・ **多様な働き方の推進（働き方改革）**：一人ひとりのライフスタイルや価値観を大事にした働き方が推進される。テレワークなど場所や時間にとられないワークスタイル。



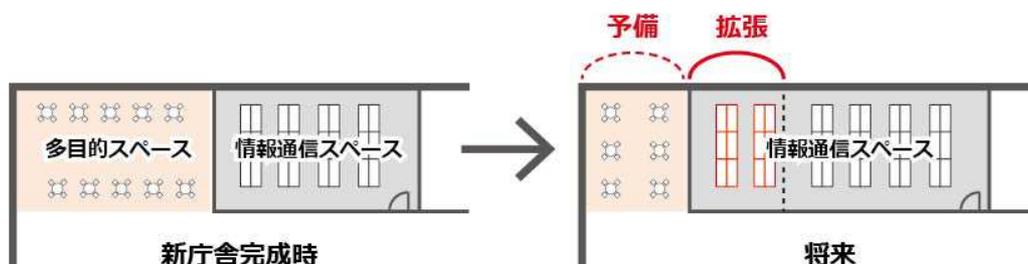
総務省 「2030 年代に実現したい未来の姿」

※総務省「未来をつかむ TECH 戦略」より抜粋

2 将来想定される庁舎の課題

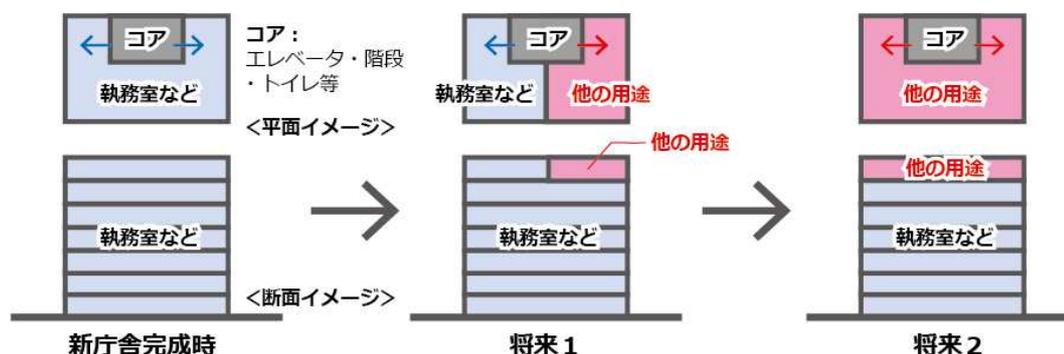
(1) ICT・AI など技術の進展によるスペースの不足

技術の進展に伴い想定される情報通信容量などの増大に対応できるように、サーバーや情報通信機器増設のためのスペース、配線スペースについては、ゆとりをもたせて確保をします。このスペースは、建物完成当初は他の用途などに多目的に利用できるようにします。



(2) 人口減少や ICT・AI 技術の進展による来庁者数の減少

- ・来庁者の減少などに伴って生じる余剰床（空きスペース・空きフロア）は、協働スペースの拡充、民間事業者への貸し付けなどの用途転用に対応できるよう配慮します。
- ・来庁者用駐車場に余剰が生じた場合は、公用車駐車場としての利用や民間事業者への貸し付けなどの活用が考えられます。



(3) 自動運転による来庁

自動運転が普及すると、来庁者は車寄せで降車をして、そこから車は自動で駐車場に移動できるようになり、来庁者の車寄せでの昇降が増大することが想定されます。これら将来の想定などを考慮しながらロータリーなどのレイアウトを検討していきます。

(4) 空飛ぶタクシー・有人ドローンなどによる来庁

空の移動革命として経済産業省より 2023 年の事業スタートのロードマップが公表されている「空飛ぶクルマ」の実用化を想定した屋上ヘリポートの設置や、ヘリポートから建物内へのバリアフリー経路の設定、荷物搬入への対応など、将来の庁舎アプローチの可能性を考慮しながら検討していきます。



空飛ぶクルマのイメージ（経済産業省）

「新庁舎開庁時」

に導入が可能な ICT・AI 技術等

<市民サポート>

- ・ **スマートフォン・タブレットによる窓口申請**：スマートフォンによる必要記入事項の事前入力や、窓口入力コーナーでのタブレット入力による申請手続きが可能。1 回の入力・記載で同時に複数の申請が行える。
- ・ **チャットボットによる相談応答**：AI 機能を有する自動応答システムによって、単純な相談業務はスマートフォンなどを用いてチャット形式で行える。
- ・ **AI による多国語翻訳・手話翻訳**：自動翻訳機によって、多言語への対応が可能になる。
- ・ **キャッシュレス支払い**：IC カード決済や QR コード決済などの普及によって、現金を持たずに手数料などの支払いができる。

<庁内業務>

- ・ **モバイルワーク**：モバイルやタブレットと無線 LAN を使って、自席以外での執務が可能となる。自宅勤務、外出先、出張先においてもモバイルを使った執務が可能。
- ・ **テレワーク**：自宅などでの勤務が可能となり、多様で柔軟な働き方が選択できる。
- ・ **ペーパーレス**：モバイルパソコンやタブレットを使って紙を使用することなく庁内業務や会議、決裁を行える。
- ・ **RPA (Robotic Process Automation : ロボットによる業務の効率化)**：データの入力・証明書の発行などの定型的・定常的な業務は、RPA ツールによって自動化。

「将来（開庁後）」

の導入が予想される ICT・AI 技術等

<市民サポート>

- ・ **オンライン申請**：スマートフォン、タブレット、PC によって、自宅などどこにいてもオンラインで申請が行える。
- ・ **We b 相談**：自宅に居ながらオンライン上で、職員顔をしながら相談ができる。
- ・ **ロボットによる受付・案内支援**：自走式ロボットによる市民の誘導、窓口案内、申請書の書き方支援、高齢者の介助、子どもの見守りなどが普及する。

<庁内業務>

- ・ **AI による分析**：多様なビッグデータ（都市計画・交通・環境・犯罪・災害）などを AI が分析し、傾向・対応策を提示。
- ・ **センサー・We b カメラによるインフラ監視**：遠隔地の高齢居住者の安全確認や、インフラ状況の遠隔確認・管理が現地に行かなくても行える。